

皆さん、こんにちは。木更津市長の渡辺です。

3月27日の木更津市長選挙におきまして、市民の皆様からご信任を賜り、引き続き、木更津市政を担わせていただくことになりました。

改めて、その職責の重さを痛感し、身が引き締まる思いでございます。

これまでの2期8年間の経験を活かしながら、常に、初心を忘れることなく、真摯に市政運営に努めてまいり所存でございます。

さて、平成26年3月に市長に就任して以来、地方創生に向けた新たな視点として「オーガニックなまちづくり」を掲げ、「自立」、「循環」、「共生」を軸とした持続可能なまちの方向性を示し、木更津市政の発展に邁進してまいりました。

これまでの8年間を振り返りますと、産業・創業支援センター「らぶ Biz」の設置や電子地域通貨「アクアコイン」の導入、「パークベイプロジェクト」の整備推進など、積み重ねてきた施策の成果が少しずつ現れているものと認識しております。

今後の4年間は、そうした取組をさらに加速させるとともに、「次代へつなぐ」をテーマとして、これまで取り組んでまいりました「オーガニックなまちづくり」を一層推進し、共生と循環で地域を円熟する中で木更津らしい豊かさを確立したいと考えております。

このような考えのもと、これからの4年間の市政運営に関する柱として、「暮らし、豊かに」、「頼れるきさらづ」、「未来ある行政モデル」の3つを掲げさせていただきます。

1つ目の柱は「暮らし、豊かに」でございます。

これまで5年間進めてきたオーガニックなまちづくりにより、市民の皆様、市内の各企業、行政がそれぞれの個性を育て成長し、共生と循環により、成熟する経済を目指すとともに、木更津らしさが豊かさとして実感できる地域づくりを進めてまいります。

具体的には、新型コロナウイルス感染症対応体制を推進し、市民の命と暮らしを守ることを最優先するとともに、パートナーシップ、ファミリーシップ制度の導入、女性の起業やシングルマザーの就労支援などの多様性向上による市民力の強化を図ってまいります。

また、スポーツに触れる機会の創出や生涯にわたって知恵となる食育計画の推進、高齢者の保健事業と介護予防連携による未病ケアの確立などによる健康寿命の延伸を図るとともに、地域包括ケアシステム強化などのシニア世代の生活環境の充実や待

機児童ゼロの達成と継続による子育て環境を充実させることで、誰もが暮らしの豊かさを実感できる社会の実現を目指してまいります。

さらに、公共施設の防災拠点化の推進や全地区一斉の防災訓練の実施、要支援者の支援体制の強化など、地域防災力の向上に努め、安心な暮らしのかなうレジリエンスな地域づくりに取り組んでまいります。

2つ目は「頼れるきさらづ」でございます。

官民連携による木更津力の強靱化と安定化を図り、市民それぞれのチャレンジを支援できる、自立した地域となることを目指してまいります。

具体的には、中小企業のIT化、SDGs推進取組の支援による経営力の底上げ、学校給食米100%オーガニック化を基軸とした環境保全型農業の推進による地域経済の強化を図るとともに、木更津オーガニックブランドの発信による地産全消への土台づくりや電子地域通貨アクアコインの活用による豊かさの巡る経済圏の創出、DMOによるオーガニックツーリズムの構築と産業の創出、金鈴塚古墳や木更津飛行場の地域活性化に向けた活用などにより、木更津らしさと価値創出に取り組んでまいります。

また、有機廃棄物の堆肥化、リサイクル&リユースセンターの整備による循環型経済の創出やゼロカーボンへの仕組みづくり、住み続けたいと思われるまちの基盤となるデザインコードの作成などによる、人と自然が調和する環境の保全に取り組んでまいります。

そのほか、あらゆる世代の居場所づくりに向けた公民館の活用改革、生涯学習センターの機能充実、食と環境と経済教育の充実や特認校の特色ある教育カリキュラムの推進など、継続的な学びの機会創出を進めることで、自立した地域づくりを目指してまいります。

3つ目は「未来ある行政モデル」でございます。

市民に寄り添い、市民に頼られる市役所として存在するために、持続可能な自治体の基盤となる行政モデルの確立を目指してまいります。

具体的には、DXによる職員業務のスマート化や民間活力の導入拡大、プライマリーバランスの均衡維持による行財政基盤の強化を図るとともに、木更津自立都市圏の構築に向け、多様なツーリズムの造成や圏域内の救急医療体制の強化など、近隣市との連携を高めてまいります。

また、多様化する社会課題に対する市職員の対応力を強化すると同時に、DXによる市民と行政、市民同士の接点強化、「地区まちづくり協議会」と地区担当職員による連携強化などにより、濃厚な官民コミュニケーションの円滑化を図る中で、市民の身

近な不都合に手を差し出せる、頼りにされる市役所となる仕組みづくりを推進してまいります。

さらに、新庁舎及び駅前交流プラザや文化芸術の拠点、子育ての拠点などの公共施設整備を推進し、市民の居場所づくりに木更津市らしさを取り入れ、未来ある行政モデルを構築してまいります。

市政運営に関する3つの柱は以上でございますが、本市の持つ魅力やポテンシャルを最大限に活かして、次代の木更津を次世代につなぎ、皆様が木更津に愛着と誇りを持って安心して生活できるよう、それぞれの施策に全力で取り組んでまいる所存でございます。

最後になりますが、今月の広報5月号の3ページに掲載されておりますとおり、今年、市制施行80周年という記念の年でございます。

この記念の年を「これまで」の歩みと「これから」を結ぶ年として、市民をはじめ、地域、企業、各種団体、行政などが市のまちづくりの担い手として連携し、新たな未来に向けて、さらなる飛躍・発展・躍動の契機とするために、「シビックプライドの醸成」、「未来ビジョンの共有」、「パートナーシップの実現」を基本方針として、さまざまな記念事業を実施していきます。

市制施行100周年を見据えたまちづくりのスタートの年として、本市の未来のあり方や担うべき役割について、市民の皆様と共に考え、共有しながら進めてまいりたいと考えておりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、市制施行80周年記念事業につきましては、来月発行の広報6月号にも掲載を予定しております。私からも今回と同じように動画でご説明させていただきますので、ぜひご視聴いただければ幸いです。

それでは、ご視聴いただきありがとうございました。
今月もどうぞよろしく願いいたします。